

大分県内経済情勢報告

令和8年4月

財務省九州財務局
大分財務事務所



(問い合わせ先)

九州財務局 大分財務事務所 財務課

TEL 097-532-7107

ホームページアドレス

<https://lfb.mof.go.jp/kyusyu/oita/>

1. 総論

【総括判断】「県内経済は、緩やかに回復しつつある」

項目	前回（8年1月判断）	今回（8年4月判断）	前回比較
総括判断	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→

（注）8年4月判断は、前回8年1月判断以降、足下の状況までを含めた期間で判断している。

（判断の要点）

個人消費は、緩やかに回復しつつある。生産活動は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある。雇用情勢は、改善の動きに一服感がみられる。

【各項目の判断】

項目	前回（8年1月判断）	今回（8年4月判断）	前回比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復しつつある	→
生産活動	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある	→
雇用情勢	改善の動きに一服感がみられる	改善の動きに一服感がみられる	→
設備投資	7年度は増加見込み	7年度は増加見込み	→
企業収益	7年度は減益見込み	7年度は増益見込み	→
住宅建設	前年を下回る	前年を下回る	→

【先行き】

先行きについては、雇用・所得環境が改善する下で、各種政策の効果もあって、回復していくことが期待される。ただし、中東情勢、物価動向、金融資本市場の変動等の影響を注視する必要がある。

2. 各論

【主な項目】

■ 個人消費 「緩やかに回復しつつある」

百貨店・スーパー販売は、堅調に推移している。コンビニエンスストア販売は、持ち直しつつある。ドラッグストア販売は、緩やかに拡大しつつある。ホームセンター販売は、持ち直しの動きに一服感がみられる。家電大型専門店販売は、持ち直しの動きに一服感がみられる。乗用車の新車販売は、回復に向けたテンポが緩やかになっている。宿泊者数及びレジャー・観光施設入場者数は、緩やかに拡大している。

(主なヒアリング結果)

- 2月は例年より気温が高かったため衣料品の冬物セールは伸び悩んだものの、企画催事において販売スペースの拡充や試飲コーナー設置などの工夫を行っており、売上げは好調となっている。(百貨店・スーパー)
- コスメなど取扱商品を増やすことで需要に対応しており、好調となっている。(ドラッグストア)
- 2月は例年より気温が高かったため、灯油等の季節商品や冬物処分セールが不調であった。一方、足下では園芸用品や植物などの売行きが伸びている。(ホームセンター)
- デジカメやゲーム機が好調である一方、売上げをけん引していたエアコンの需要は落ち着きがみられている。(家電大型専門店)
- 一部メーカーにおいて、人気車種への需要集中により、納期の長期化や受注停止といった影響が出ている。(自動車業界団体)
- 春休みでハイシーズンとなるなか、客室稼働率は高水準を維持しており、周辺観光地も平日休日ともに観光客で賑わっている。(宿泊施設)
- 客数は天候に左右されつつも、国内客・インバウンドともに引き続き増加している。(レジャー・観光施設)

■ 生産活動 「一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直しつつある」

非鉄金属・金属製品は、堅調に推移しているものの、原材料市況の悪化の影響がみられる。化学・石油製品は、一部に弱さがみられるものの、緩やかに持ち直している。鉄鋼は、海外需要を中心に弱さが続いているものの、緩やかに持ち直している。汎用・生産用・業務用機械は、堅調である。電子部品・デバイスは、緩やかに持ち直しつつある。輸送機械は、持ち直している。

- 需要は好調で堅調に生産しているものの、原材料市況が悪化した状況が続いている。(非鉄金属・金属製品)
- アジアにおける市況低迷が長期化するなか、国内の自動車向け需要の持ち直しや同業他社の減産等を背景に市況改善の兆しがみられていたが、中東情勢の悪化により先行きは不透明となっている。(化学・石油製品)
- 需要家の在庫調整により需要が低迷していた主力製品について、需要が回復したことから、前年を上回る生産量となっている。(化学・石油製品)
- 中国国内の余剰分が近隣国へ大量に輸出されている影響による市況の弱さが続いているほか、原材料価格の上昇がみられるものの、生産量は維持できている。(鉄鋼)
- 自動車関連の需要が堅調に推移しており、生産スケジュールはタイトとなっている。(汎用・生産用・業務用機械)
- エアコンなどの民生品やモバイル向けの需要は横ばいの状況が続いているが、車載部品や半導体の工作機械といった業務用向けの需要はこのところ好調となっている。(電子部品・デバイス)
- 新製品の需要は想定よりも弱く生産は計画を下回っているが、既存製品の需要が好調であり、全体としてみると計画どおりの生産となっている。(輸送機械)

■ 雇用情勢 「改善の動きに一服感がみられる」

企業の人手不足感は続いているものの、有効求人倍率は緩やかな低下傾向にあり、改善の動きに一服感がみられる。

- 求人は継続しているものの、土日祝日の勤務が敬遠されるなど、現場人員は慢性的に不足している。(小売)
- 特殊業務のため人材確保が難しく、外国人技能実習生を採用しているが、それでも不足している。(食料品)
- 新工場の完成により増産を見込んでおり、増員が必要となっている。(生産用機械器具)
- 業界全体として中長期的にみると製品の需要は減少傾向にあるため、生産機械の自動化等による人員のスリム化を進めている。(情報通信機械器具)
- 応募がなく中途採用ができない状況が続いていたが、募集を継続していたことで採用できたほか、新卒採用も会社説明会へ積極的に参加した効果で計画よりも多く採用できた。(自動車・同附属品)

- 設備投資 「7年度は増加見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期
 - 製造業、非製造業ともに増加見込みとなっている。
- 企業収益 「7年度は増益見込み」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期
 - 製造業では増益見込み、非製造業では減益見込みとなっている。
- 住宅建設 「前年を下回る」
 - 新設住宅着工戸数(7年12月-8年2月期)は、前年を下回っている。

【その他の項目】

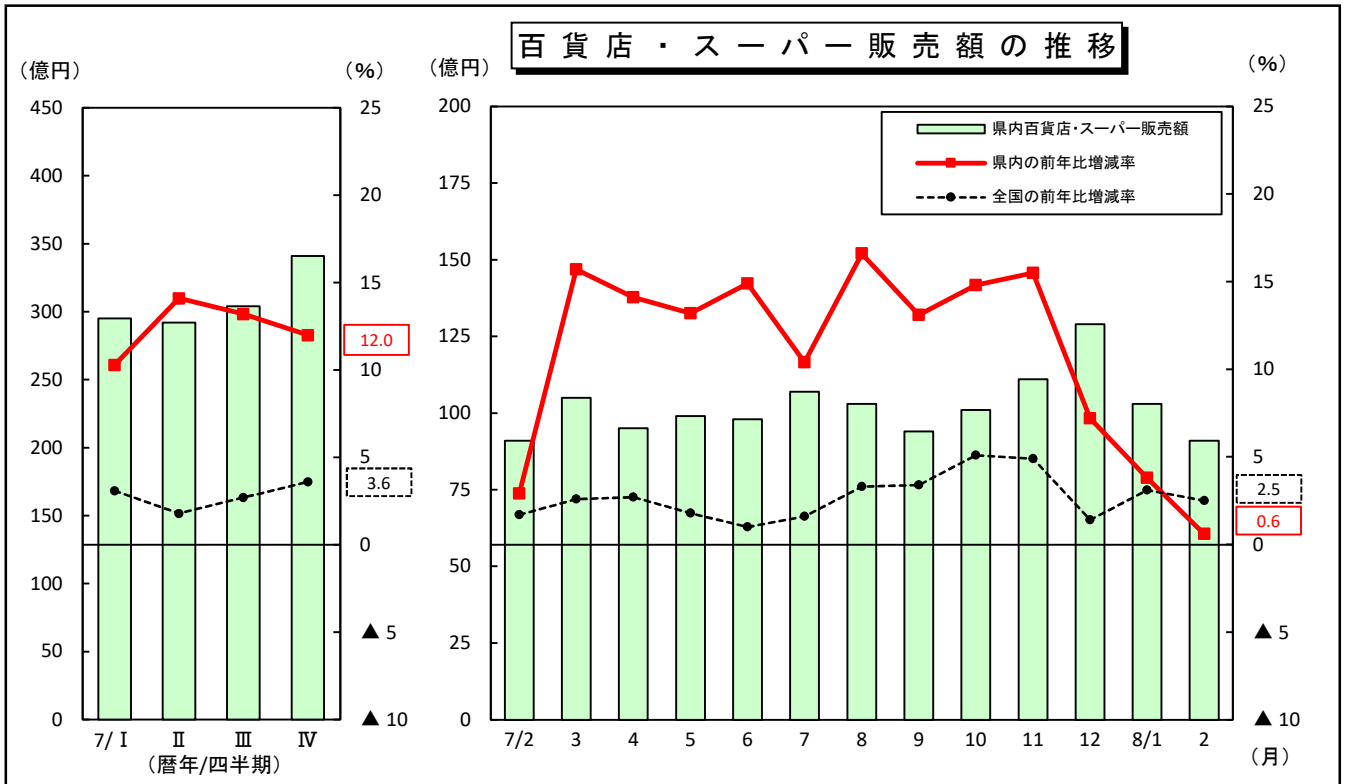
- 企業の景況感 「現状判断は『下降』超」 (全産業) 「法人企業景気予測調査」8年1-3月期
 - 8年1-3月期の景況判断BSIをみると、全産業では「下降」超となっている。
先行きについては、8年4-6月期は「上昇」超の見通しとなっている。
- 公共事業
 - 公共工事前払金保証統計の請負金額(7年4月-8年2月累計)は、前年度を下回っている。
- 倒産
 - 企業倒産(8年1-3月期)は、件数、負債総額ともに前年を下回っている。

参 考 資 料

	頁
1. 個人消費	参-1
2. 生産活動	参-5
3. 雇用情勢	参-6
4. 設備投資	参-7
5. 企業収益	参-7
6. 住宅建設	参-8
7. 企業の景況感	参-9
8. 公共事業	参-10
9. 倒産	参-11

1. 個人消費

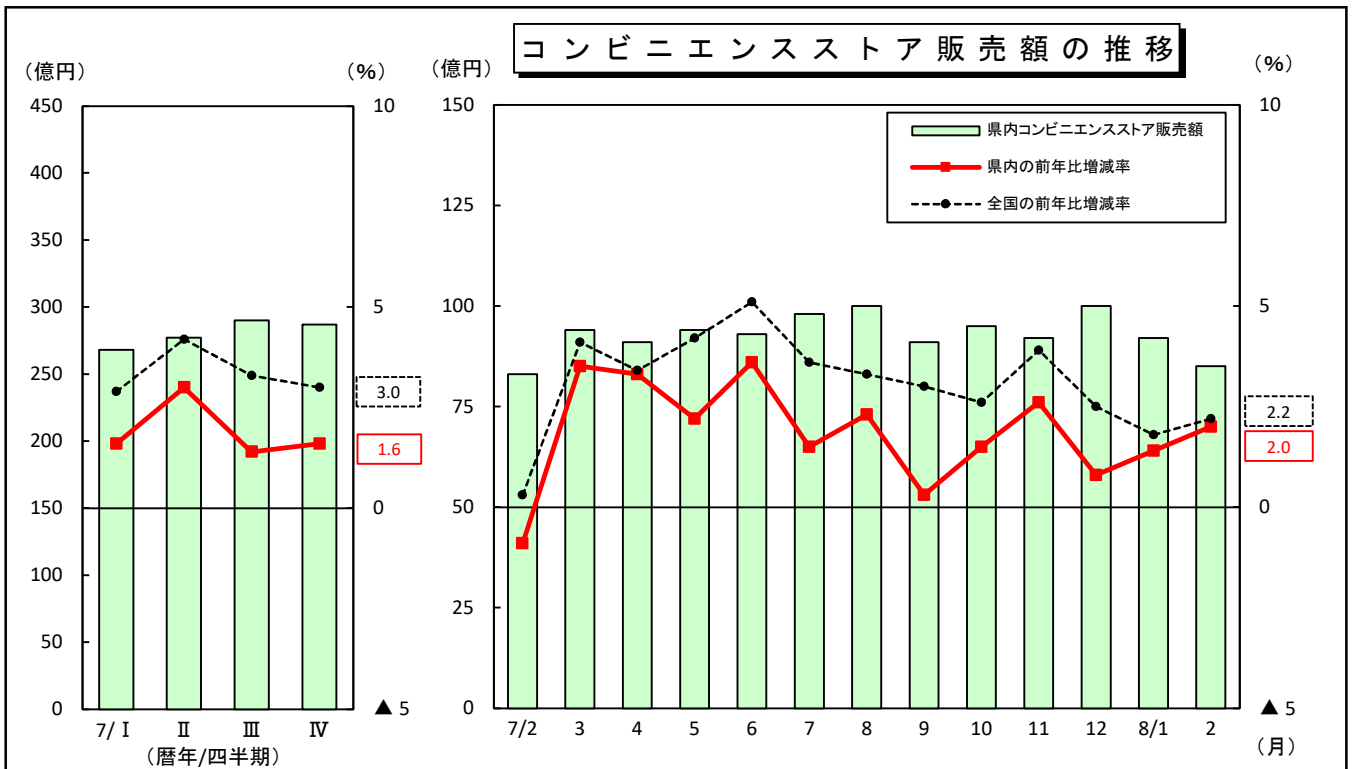
【資料1】



(注) 全店ベース、8年2月は速報値。

[資料：経済産業省]

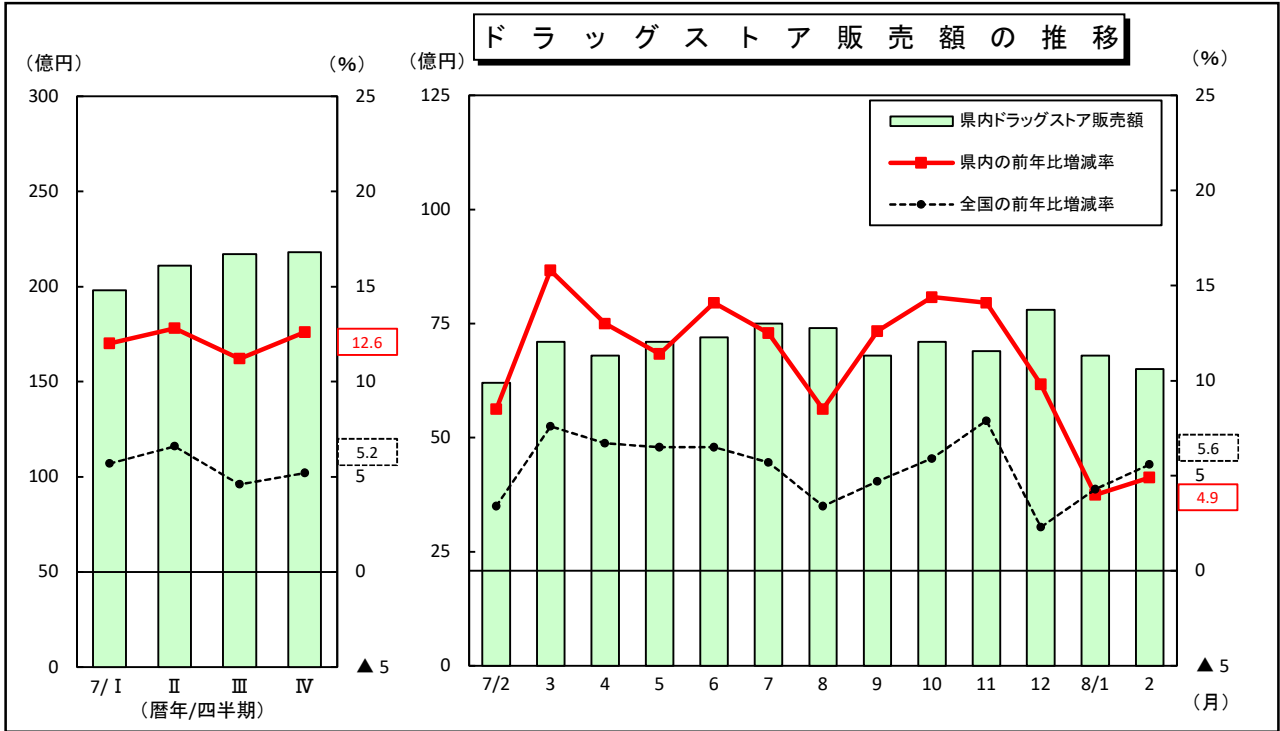
【資料2】



(注) 全店ベース、8年2月は速報値。

[資料：経済産業省]

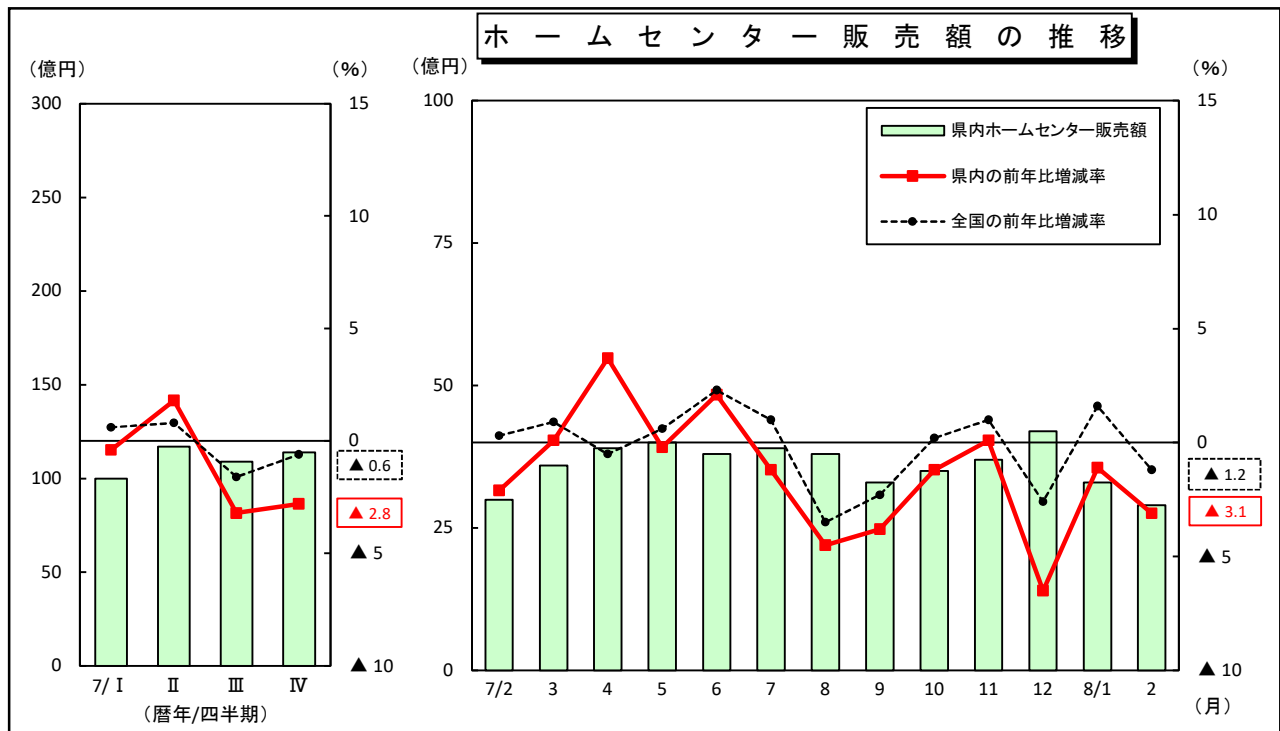
【資料3】



(注) 全店ベース、8年2月は速報値。

[資料：経済産業省]

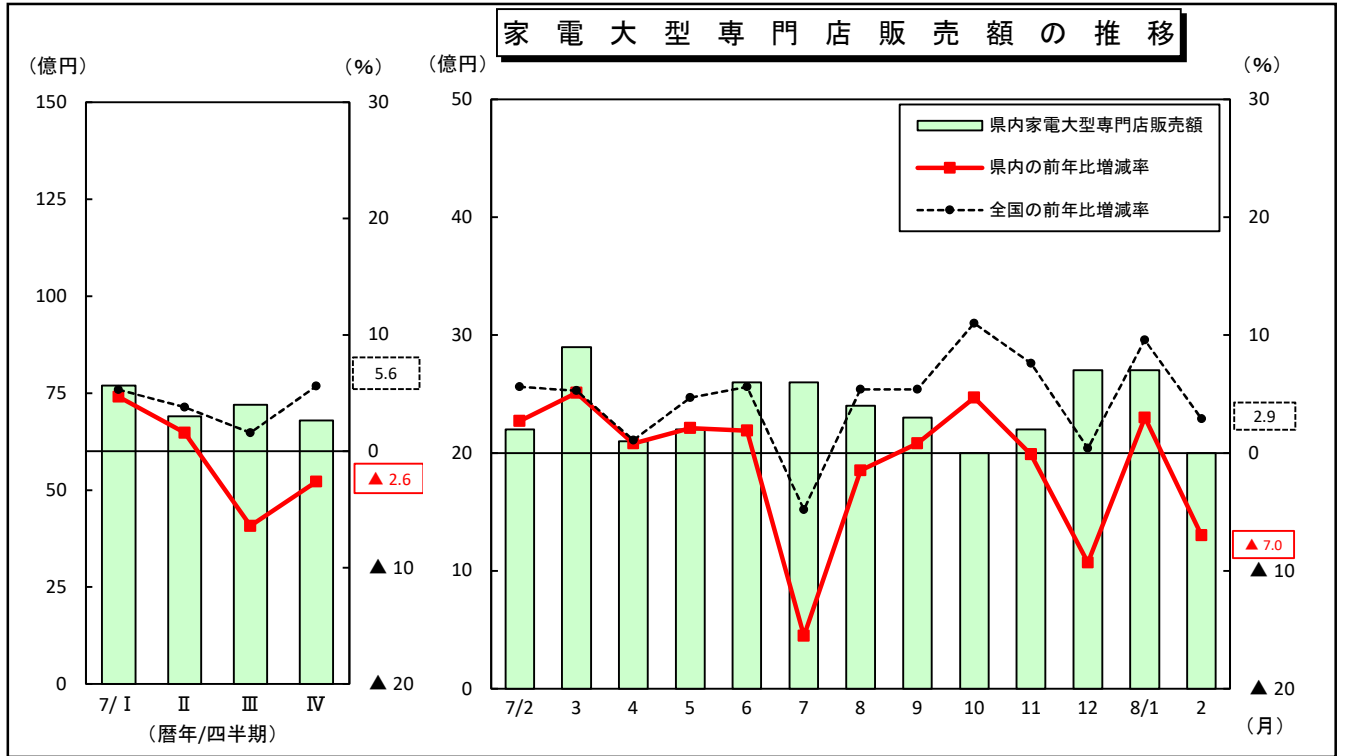
【資料4】



(注) 全店ベース、8年2月は速報値。

[資料：経済産業省]

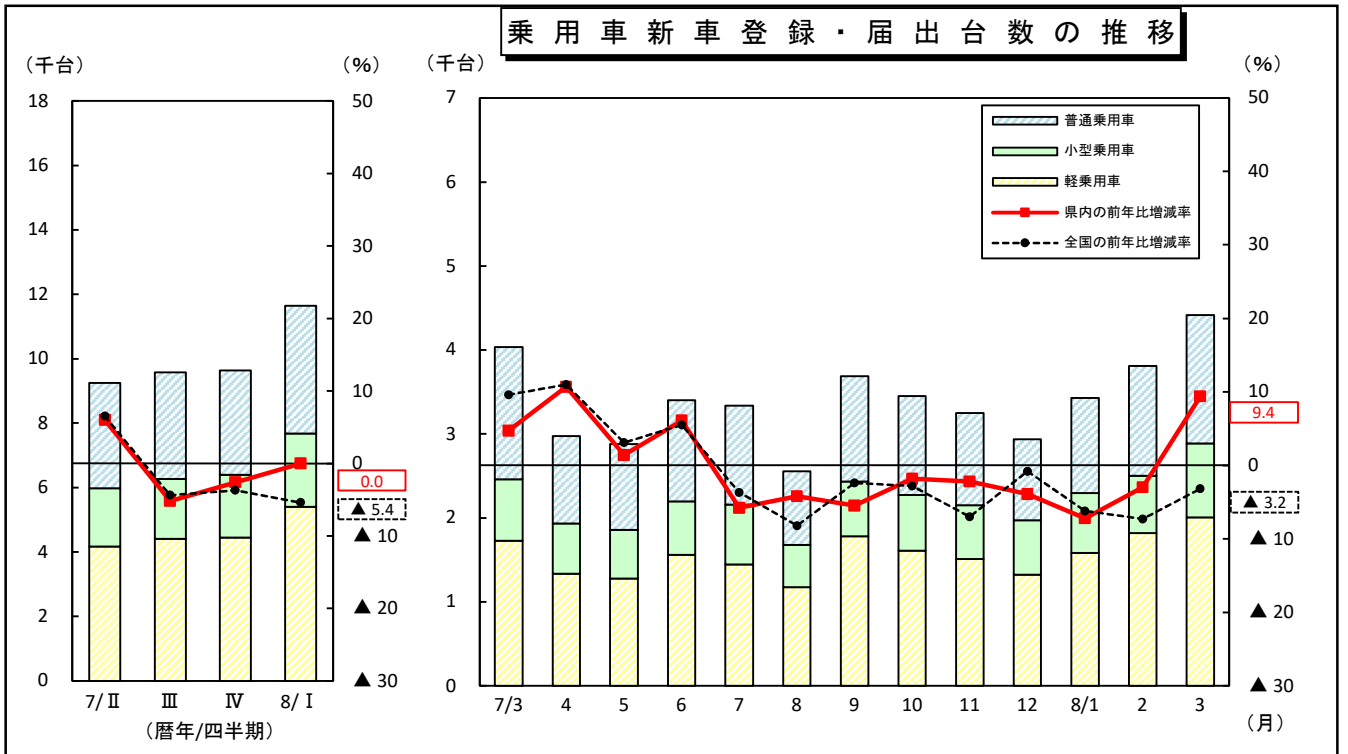
【資料5】



(注) 全店ベース、8年2月は速報値。

【資料：経済産業省】

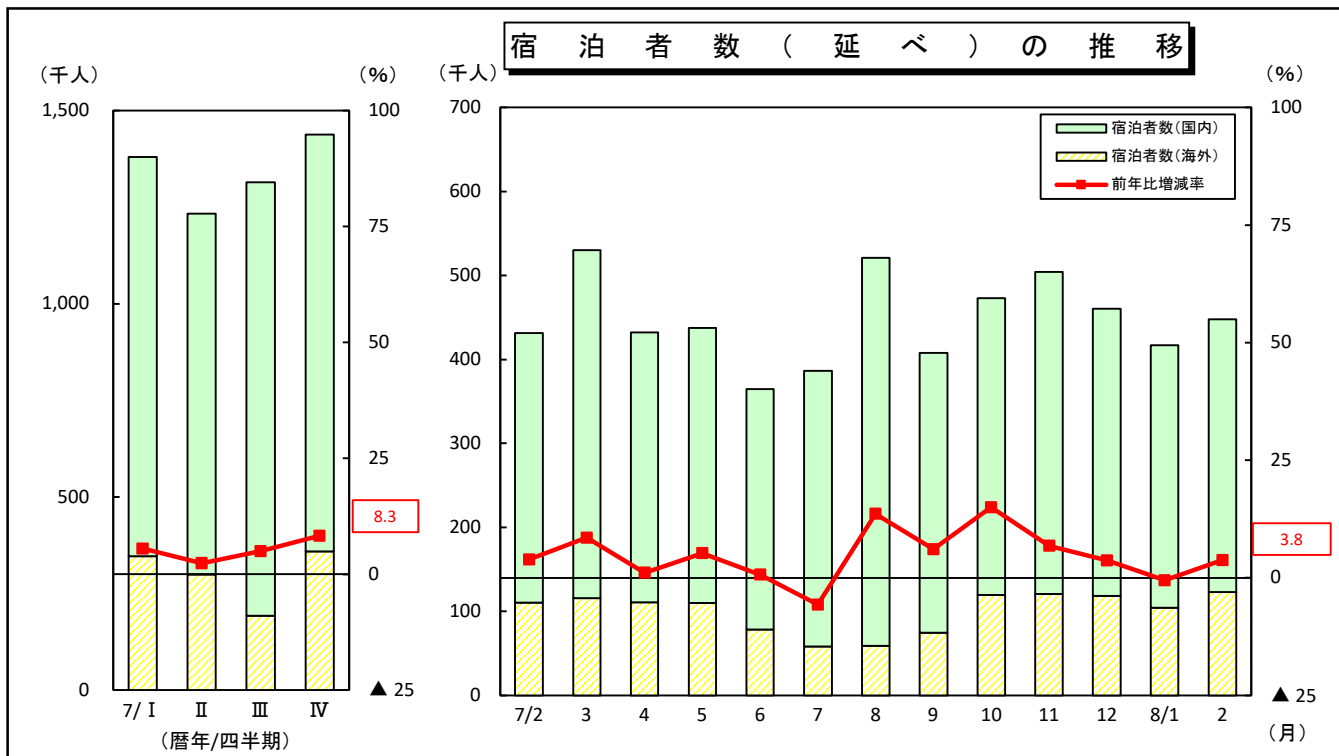
【資料6】



(注) 全国の8年3月は速報値。

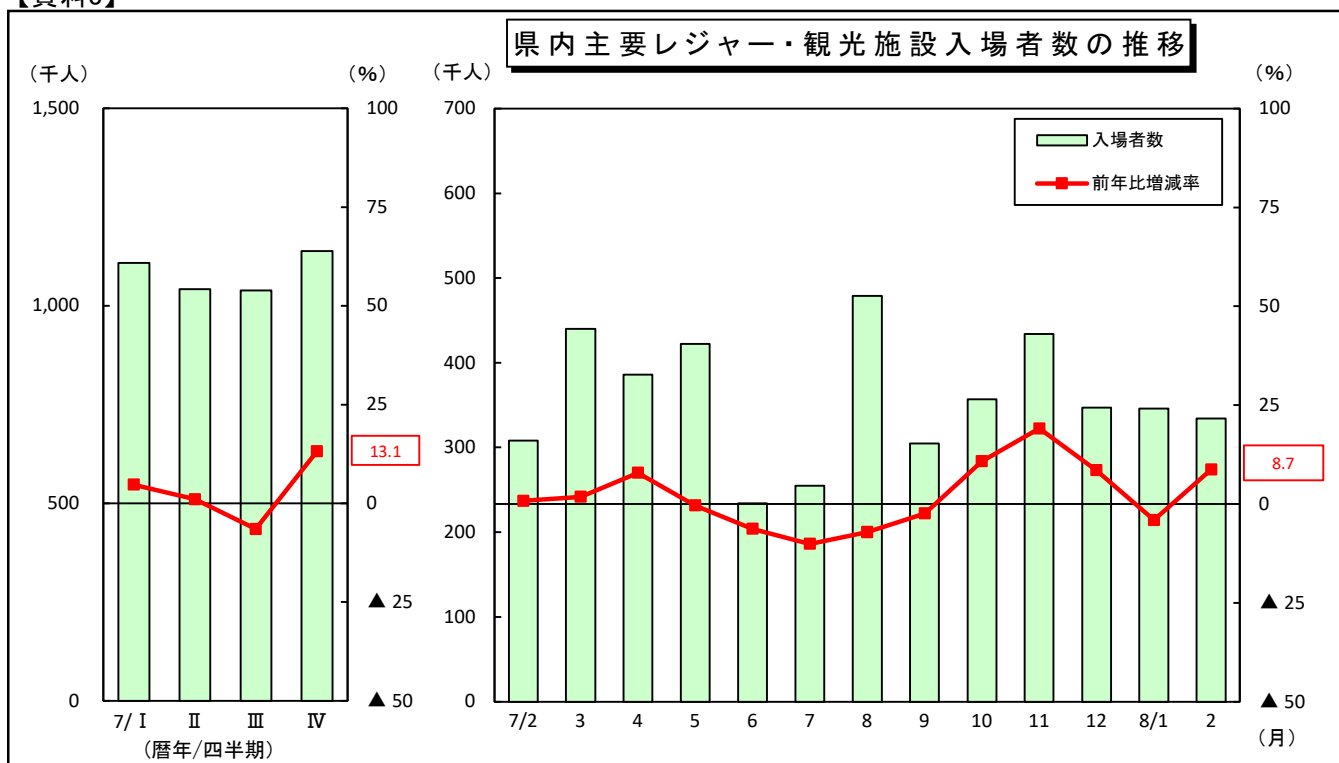
【資料：日本自動車販売協会連合会、全国軽自動車協会連合会】

【資料7】



[資料：大分県]

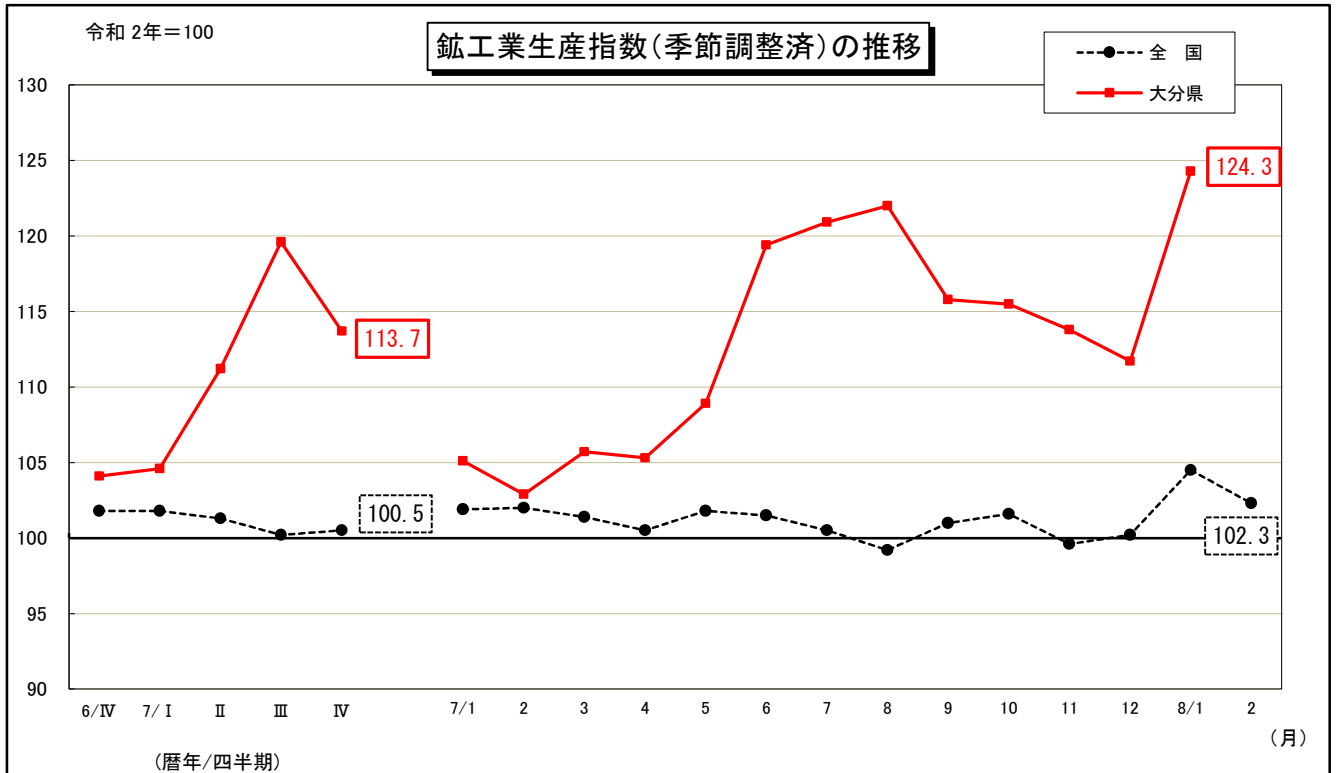
【資料8】



[資料：大分財務事務所]

2. 生産活動

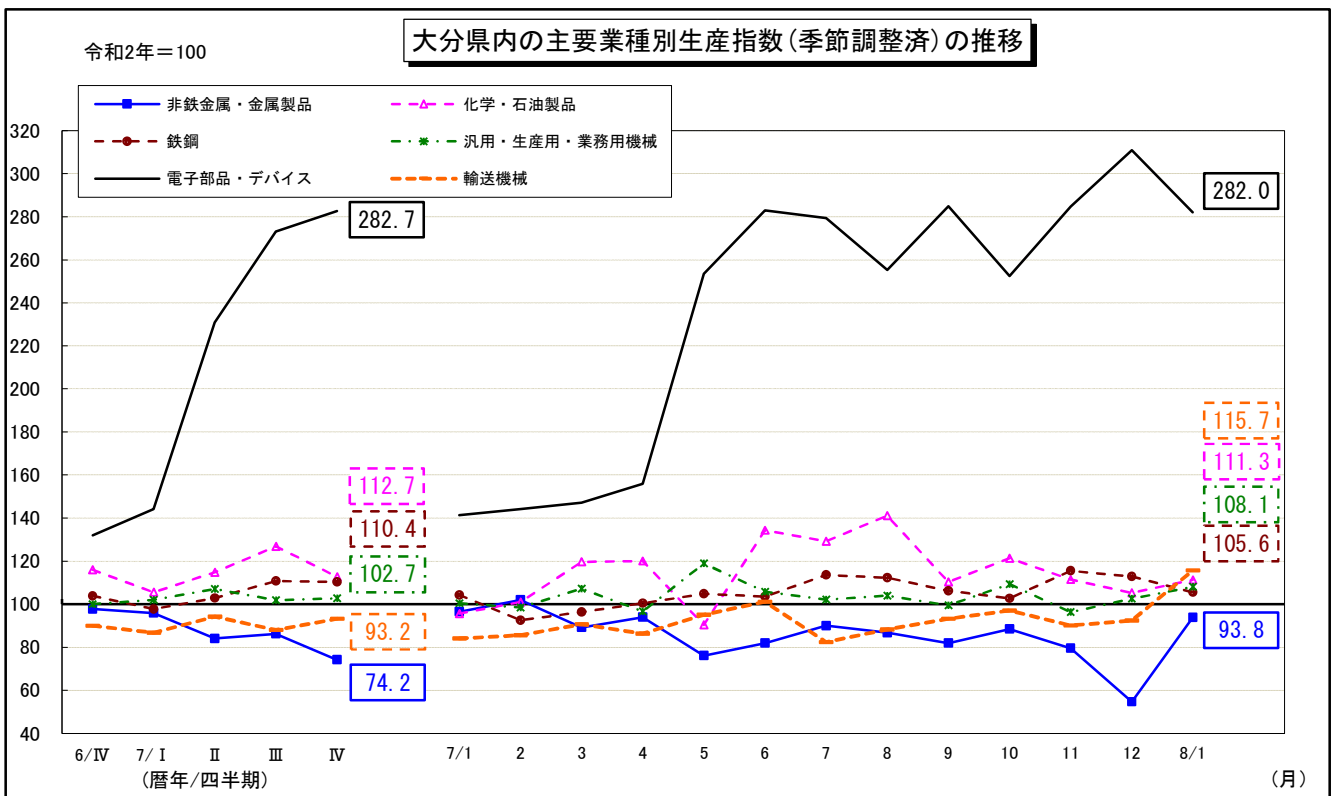
【資料9】



(注) 8年2月は速報値。

[資料：経済産業省、大分県]

【資料10】

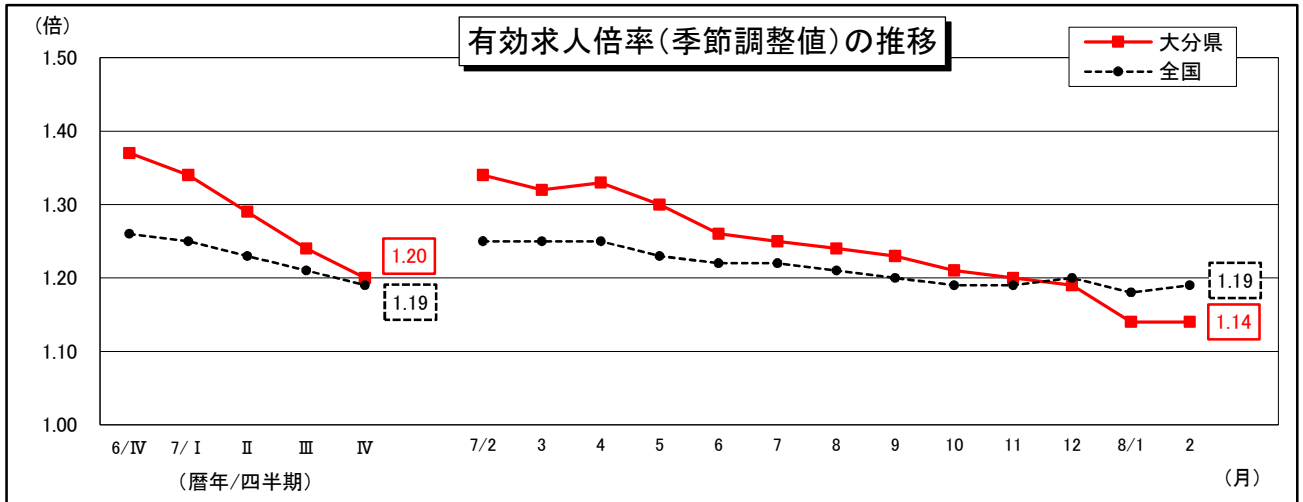


(注) 電子部品・デバイスについては、経済産業省生産動態統計調査における事業者による申告の見直しに伴い、令和7年5月分から大幅に指数が変化している。

[資料：大分県]

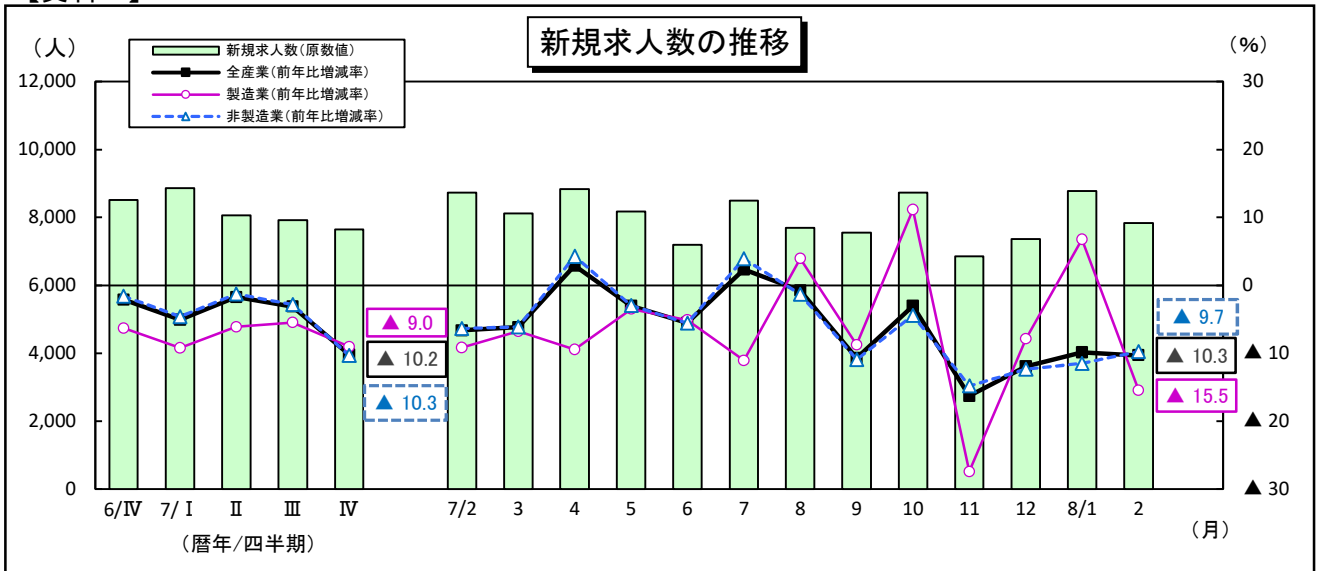
3. 雇用情勢

【資料11】



[資料：厚生労働省]

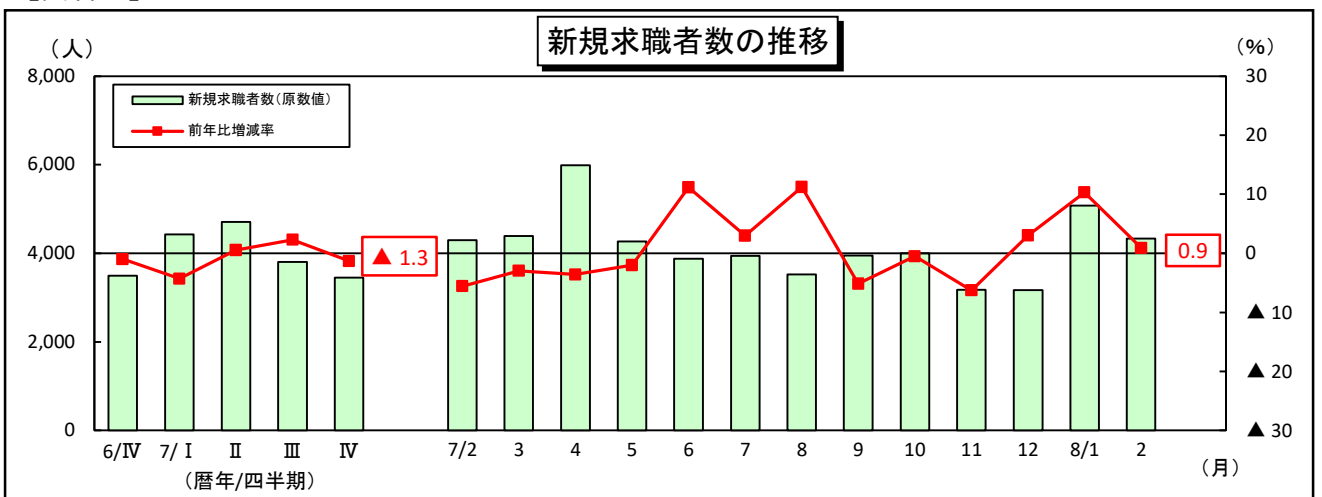
【資料12】



(注) 新規求人数の各四半期のグラフは平均値。

[資料：厚生労働省、大分労働局]

【資料13】

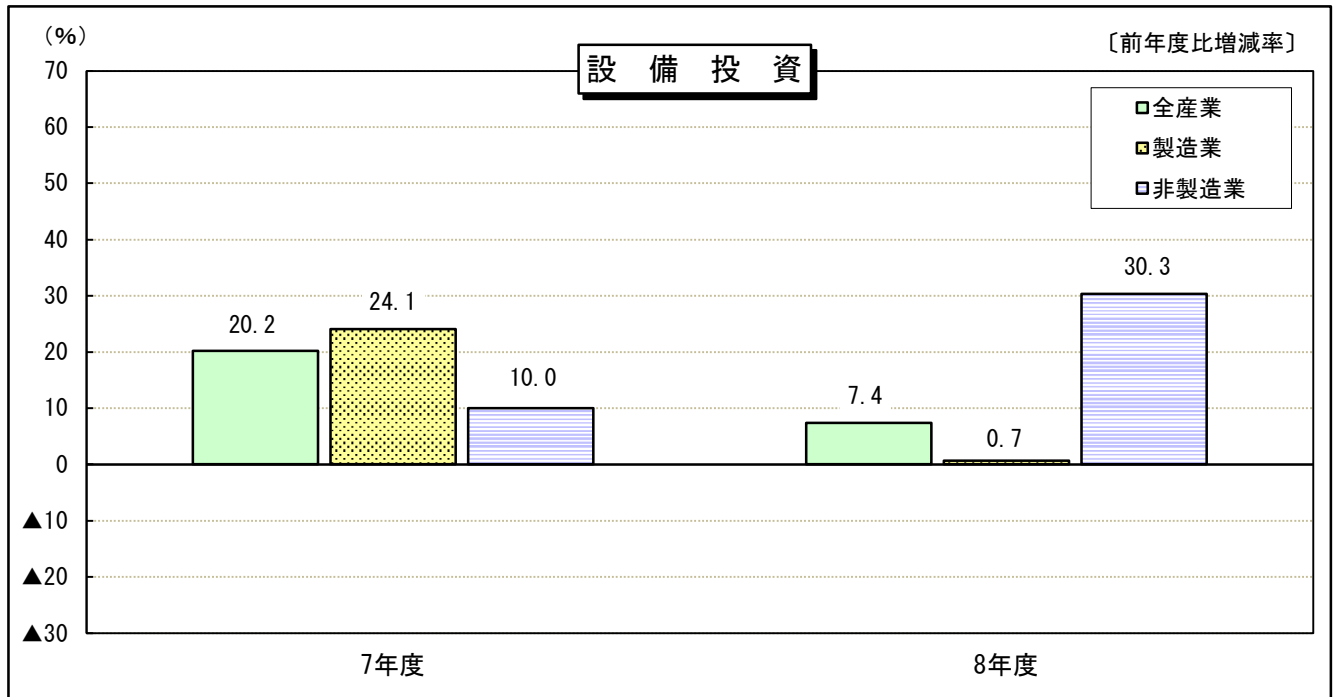


(注) 新規求職者数の各四半期のグラフは平均値。

[資料：厚生労働省]

4. 設備投資

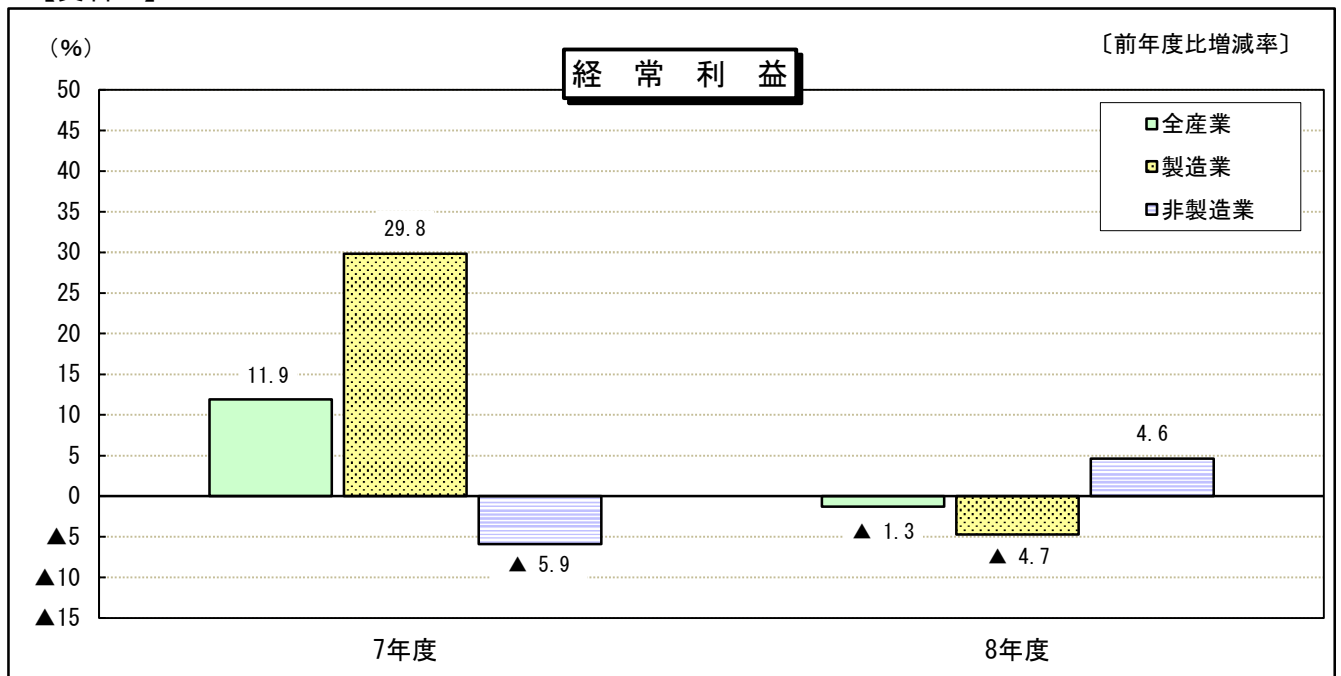
【資料14】



[資料:大分財務事務所 法人企業景気予測調査(8年1-3月期調査)]

5. 企業収益

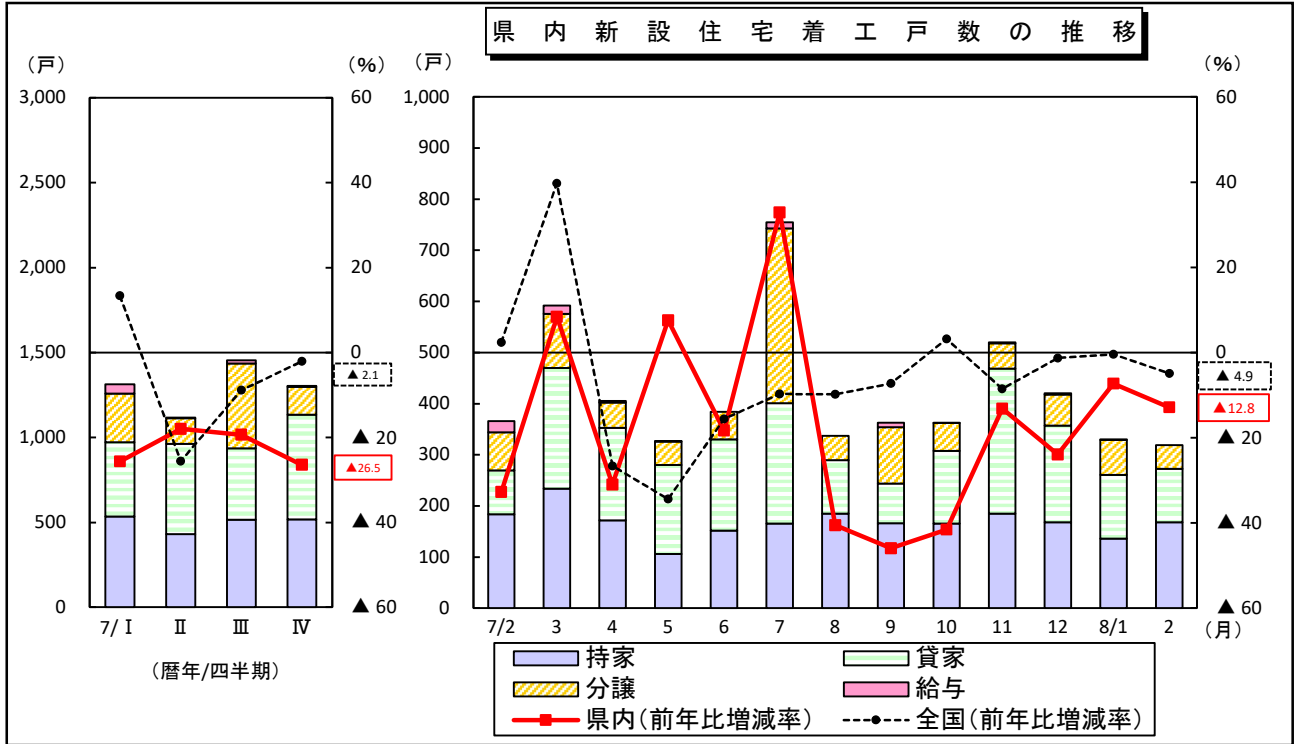
【資料15】



[資料:大分財務事務所 法人企業景気予測調査(8年1-3月期調査)]

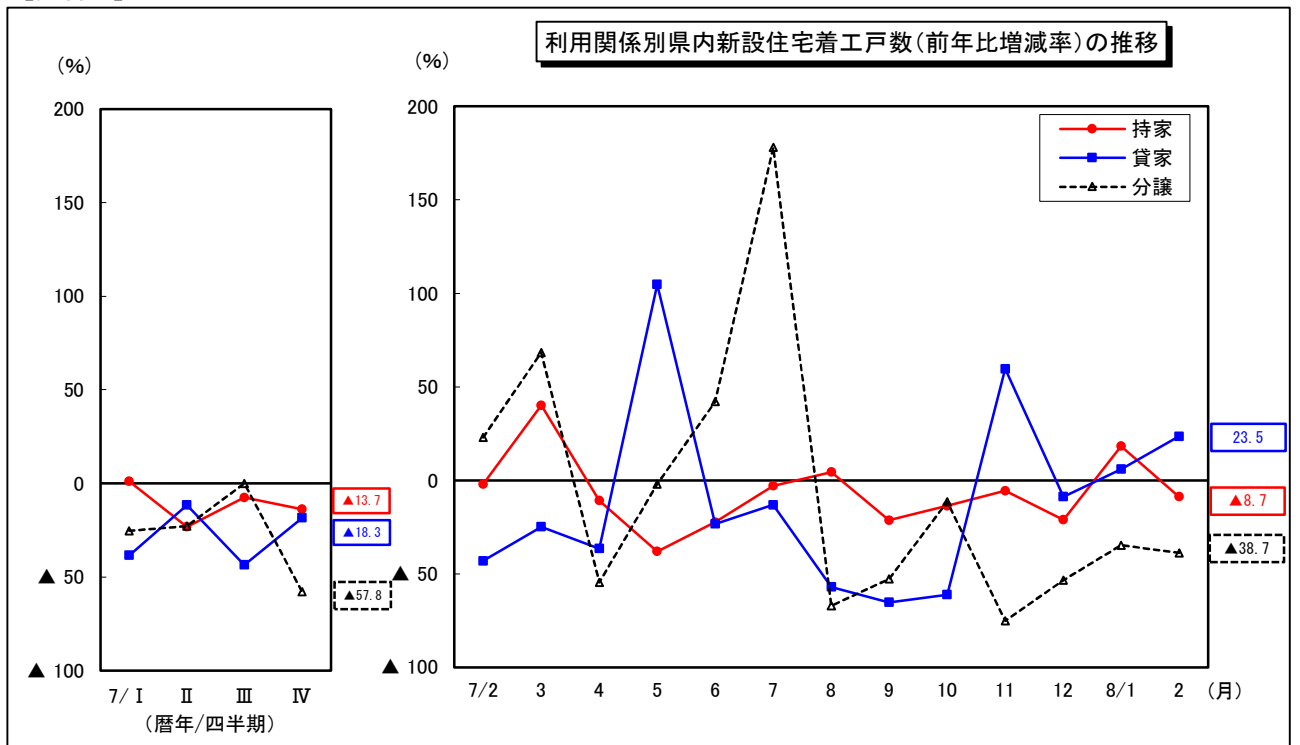
6. 住宅建設

【資料16】



[資料：国土交通省]

【資料17】



[資料：国土交通省]

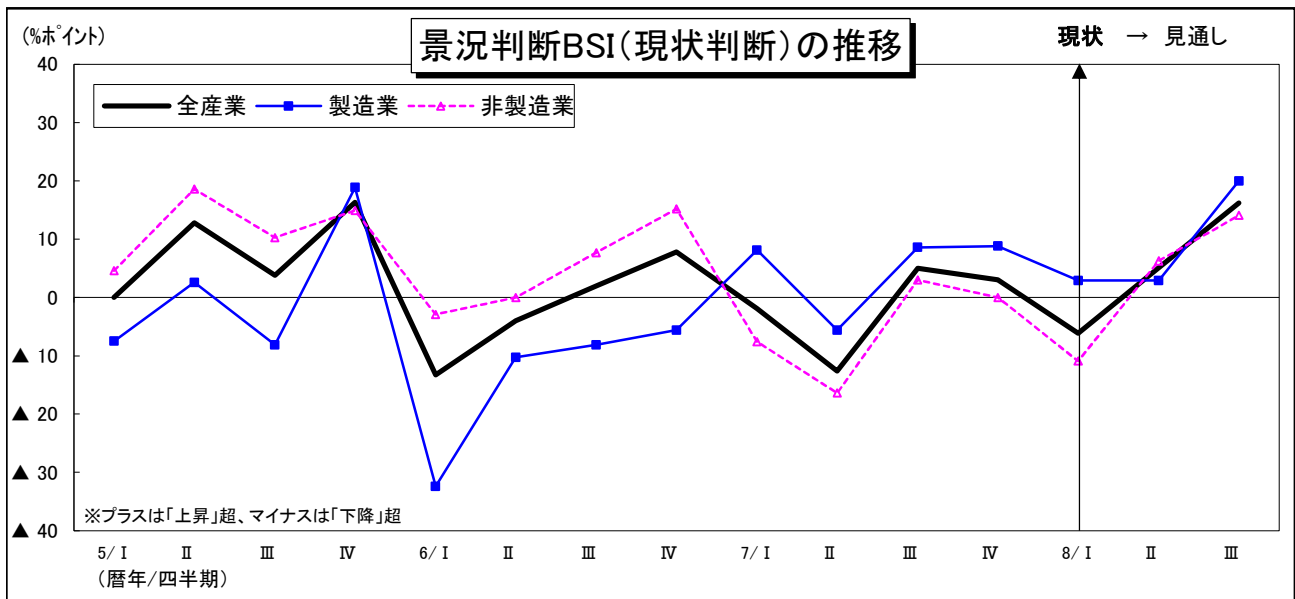
7. 企業の景況感

【資料18】景況判断 B S I（前期比「上昇」-「下降」の社数構成比）（回答企業数：社、BSI：%ポイント）

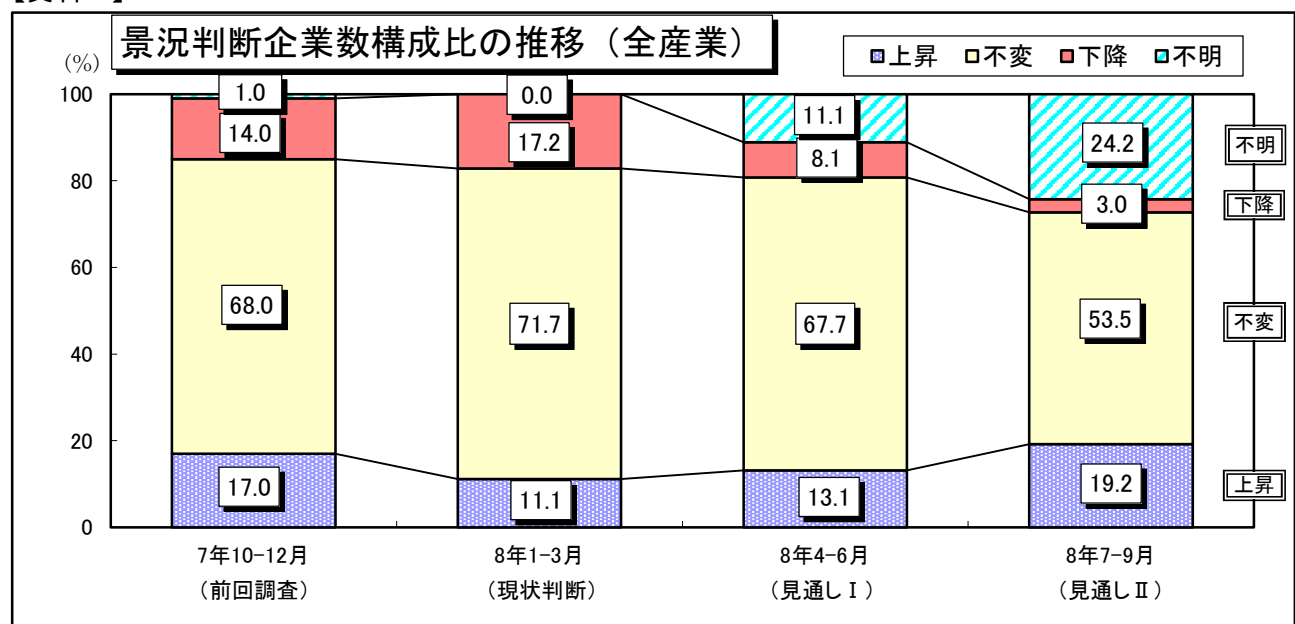
	回答 企業数	7年10-12月 (前回調査)	8年1-3月 (現状判断)	8年4-6月 (見通しⅠ)	8年7-9月 (見通しⅡ)
全産業	99	3.0	(1.0) ▲ 6.1	(1.0) 5.1	16.2
製造業	35	8.8	(▲ 2.9) 2.9	(0.0) 2.9	20.0
非製造業	64	0.0	(3.0) ▲ 10.9	(1.5) 6.3	14.1
大企業	19	5.3	(▲ 5.3) ▲ 5.3	(0.0) ▲ 5.3	0.0
中堅企業	38	13.2	(2.6) ▲ 7.9	(7.9) 15.8	18.4
中小企業	42	▲ 7.0	(2.3) ▲ 4.8	(▲ 4.7) 0.0	21.4

(注) () 書きは前回調査時の見通し。

【資料19】



【資料20】

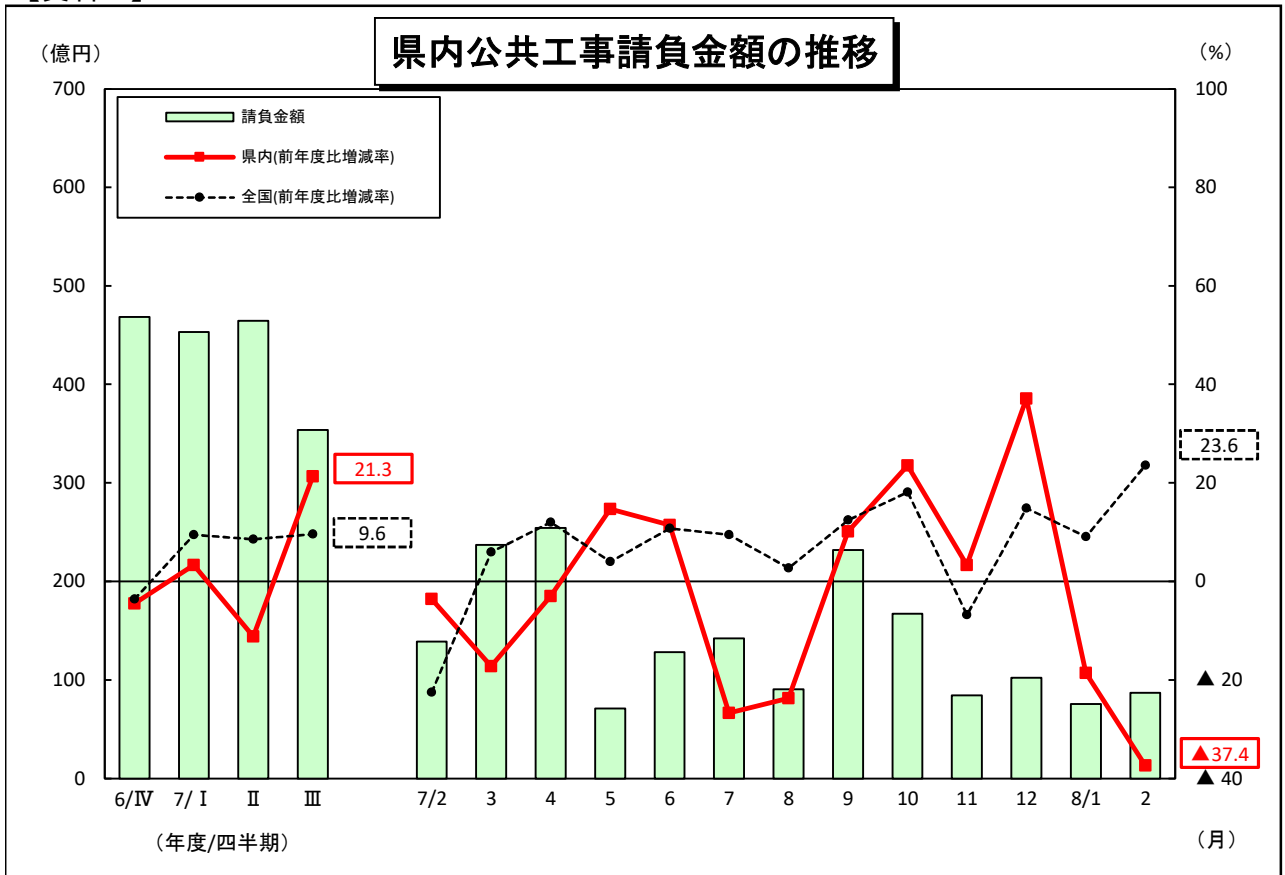


(注) 端数整理の関係により、「上昇」+「不変」+「下降」+「不明」=100にならない場合がある。

[資料:大分財務事務所 法人企業景気予測調査(令和8年1-3月期調査)]

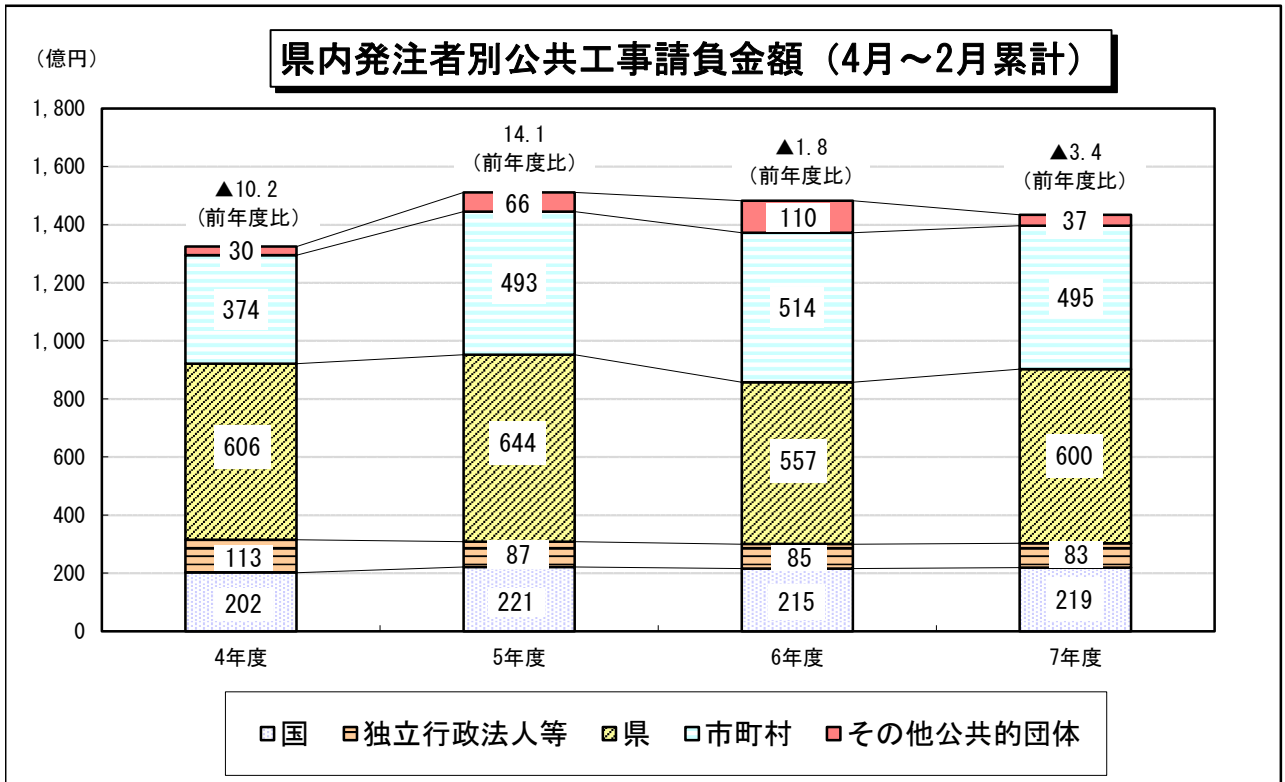
8. 公共事業

【資料21】



[資料：北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)]

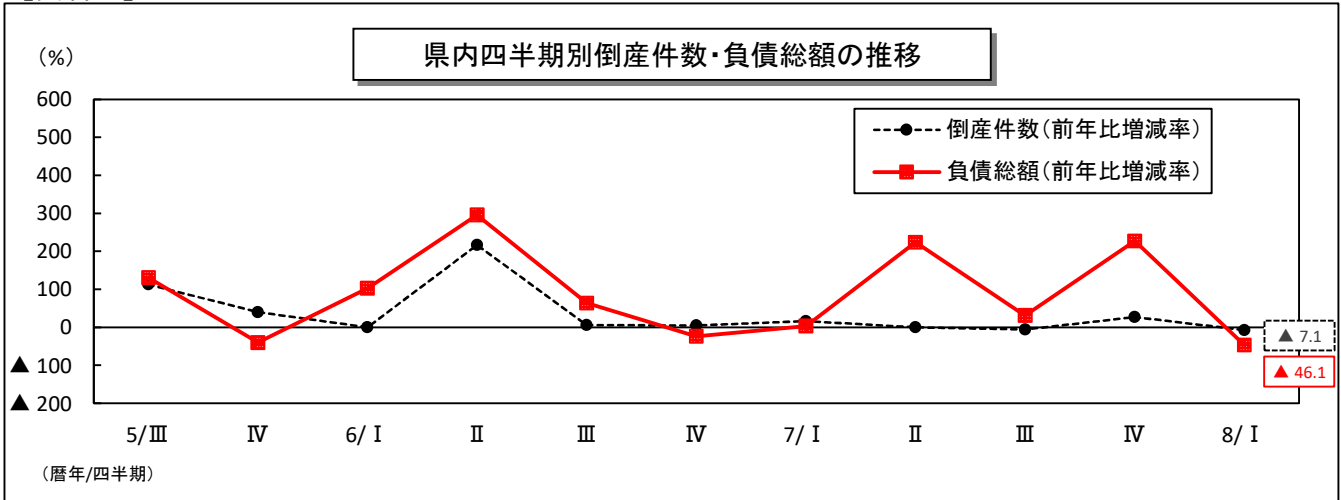
【資料22】



[資料：北海道建設業信用保証(株)、東日本建設業保証(株)、西日本建設業保証(株)]

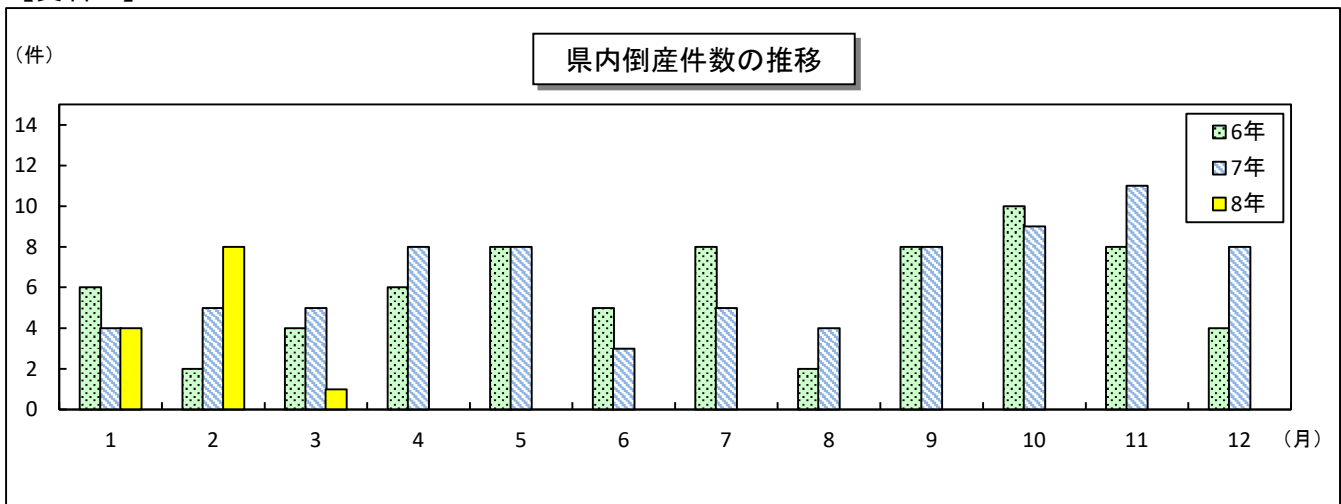
9. 倒産

【資料23】



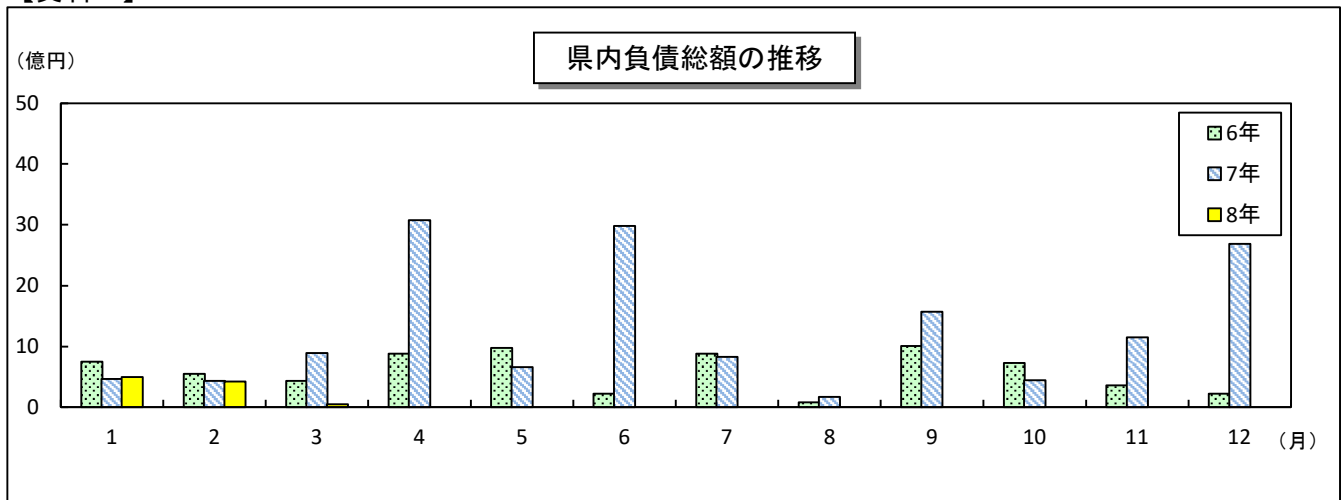
[資料：東京商工リサーチ]

【資料24】



[資料：東京商工リサーチ]

【資料25】



[資料：東京商工リサーチ]